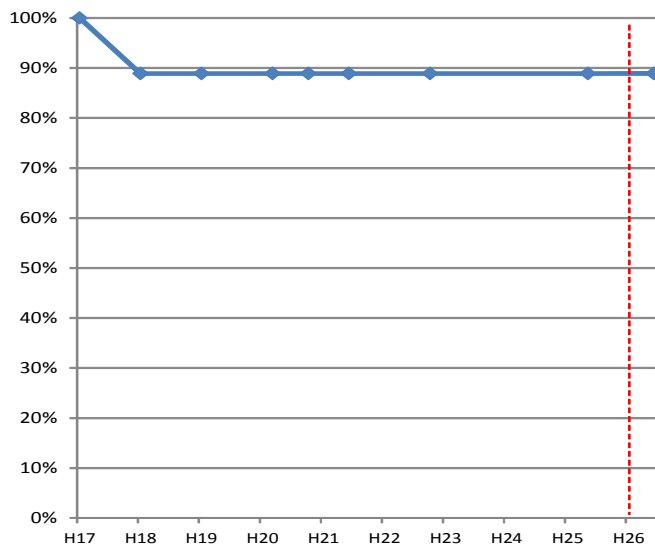


樹種名	ナナミノキ (別名: ナナメノキ)	
科目	モチノキ科	
学名	<i>Ilex chinensis</i>	
分布	モチノキ科の常緑高木で本州静岡以西から四国、九州の山地に自生する。国外では中国に分布する。	
樹木特性	半陰樹であり、常緑樹林やアカマツ林に生育する。	
用途	印鑑・櫛材として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	9本 (他樹種との混植)	
特徴	<p>【樹形】 常緑高木で高さは10mに達する。 幹は直通で、灰褐色で樹肌はなめらか、葉は皮革質で目立った特徴がないが、若枝は緑色で稜(りょう)がある。 葉は厚く、長卵状楕円(だえん)形、長さ7~13cm、低い鋸齒(きょし)がある。 花は6月に開花し小さな花を咲かせ、葉腋(ようえき)から出た集散花序につき、淡紫色。雌雄異株である。 秋には果実を付け核果は球形、径約6mmで、赤く熟す。 材は器具材とし、樹皮からとりもちや染料を摂る。</p>	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、病虫獣害も特に見られず現存率、成長状況ともに良好である。植栽から9年が経過し、平均樹高は6m程度と順調に推移している。	
被害	特になし。	

ナナミノキ 現存率



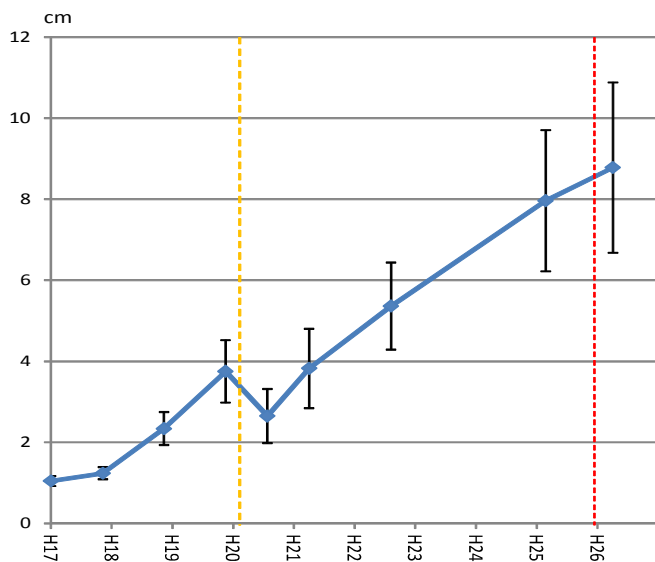
【現存率】

植栽後に1本が枯死した。
その後、枯死は発生しておらず良好である。
平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は88.9%であった。
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

順調に成長している。
平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は8.78cmであった。
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。
※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

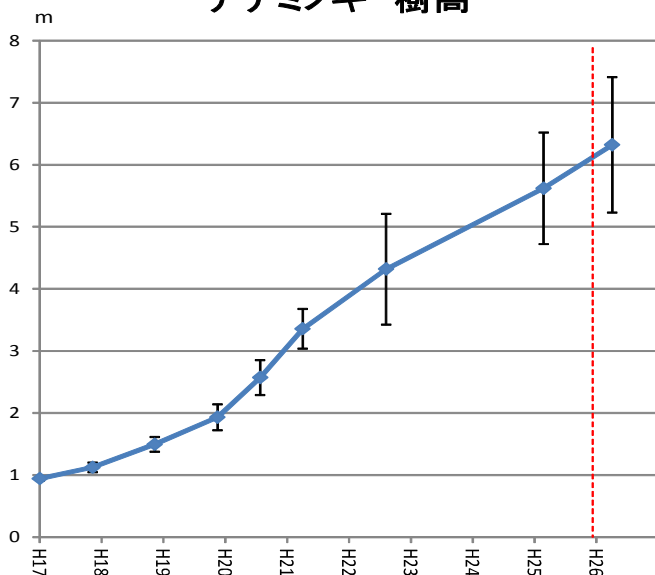
ナナミノキ 根元・胸高直径



【樹高】

植栽後、順調に成長している。
平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は6.32mであった。
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。





ナナミノキ 樹高



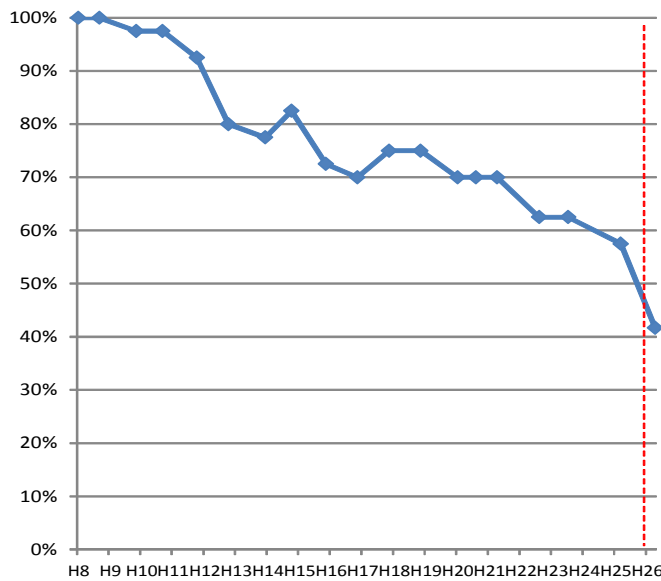
《プチ情報》

ナナミノキの由来にはいろいろな説がある。一説には、果実の形が長楕円形であり、他のモチノキ科の果実と比べ「長い」ことから、「長実の木」と言われ、それが転訛したとされる。

別名を「ナナメノキ」ともいうが、これは「ナナミ」が「ナナメ」に誤って変化したものだろう。実際にナナミノキの幹はふつうまっすぐ伸びる。しかし、その別名ゆえに「家がかたむく」と考えて庭木にするのを嫌う人もある。

樹種名	ナンキンハゼ	
科 目	トウダイグサ科	
学 名	<i>Sapium sebiferum</i>	
分 布	中国原産で九州では一部野生化している。適潤肥沃地を好むが耐湿性が強く、低湿地・川辺でもよく育つ。	
樹木特性	公園などによく植えられており、秋になると葉が黄色から紅色に色づいてとても美しい。この葉は染料となる。	
用 途	公園樹、街路樹、器具材として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	300本/0.09ha (約3,500本/ha)	
特 徴	<p>【樹形】 ナンキンハゼ(南京櫨)は、トウダイグサ科の落葉高木である。樹高6m程度。葉は三角状広卵形で先端は尾状で、秋、紅葉する。花は雌雄同株であり、5月から6月開花する。雄花は総状花序で、その葉腋に雌花をつける。</p> <p>果実は秋、少し三角のかかった球形の蒴果(さくか)を黒熟させ、3個の種子を出す。種皮は黒色であるが、その表面は脂肪に富んだ白色の蠟状物質で覆われる。蒴果が裂開しても、種子は果皮から自然に離脱することなく、紅葉期から落葉後まで長く樹上に留まり、白い星を散らしたようで非常に目立つ。ムクドリなどの鳥類がこの種子を摂食し、蠟状物質を消化吸収して種子を排泄することで、種子分散が起こる。ハゼの名称はついていますが本種はトウダイグサ科でありウルシ科の樹木と違って皮膚がかぶれることはない。</p> <p>秋の紅葉が美しく緑化樹として利用されている。白蠟をかぶった種子から蠟油を搾油できるが戦後になって途絶えている。材は家具・器具に利用される。</p>	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後からコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害が発生した。現存率は42%程度となっている。植栽から18年が経過した現在の平均樹高は4m程度と低い。	
被 害	植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。特にコウモリガの被害が顕著であった。(延べ駆除本数 コウモリガ:116本、カミキリムシ類:12本)	

ナンキンハゼ 現存率



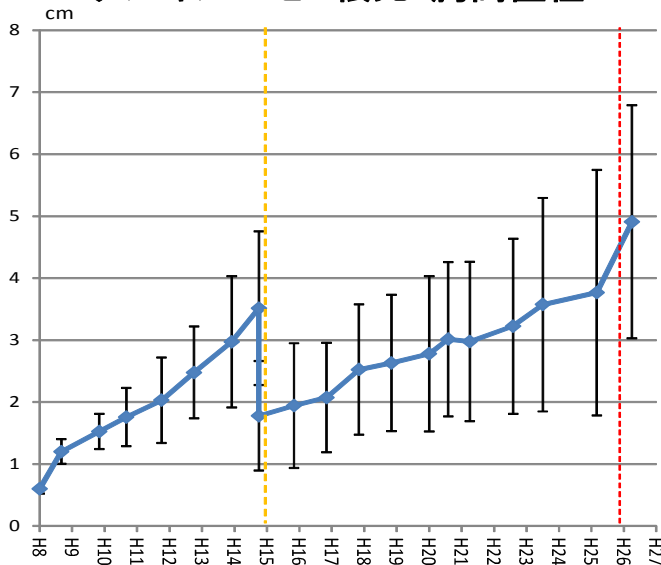
【現存率】

植栽後よりコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害による枯死が発生している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 41.7%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ナンキンハゼ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

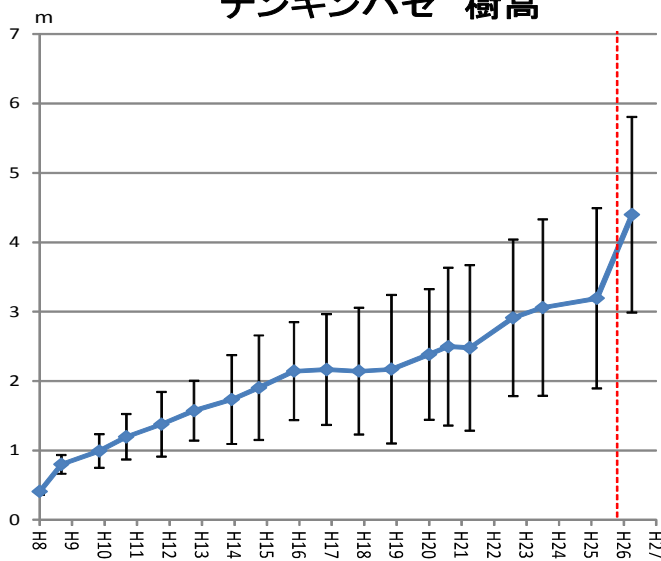
現存木は順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 4.91 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ナンキンハゼ 樹高



【樹高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 4.40mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

